

新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「タケノコ食べて蛭を見る会 in 土佐山」が開催されました

鏡川流域内関係人口講座2期生の大久保真希さんが、まちのコイン「ぼっちり」のスポット「**タケノコ食べて放置竹林解決プロジェクト**」を立ち上げて活動しています。このプロジェクトは、鏡川上流域などで課題となっている放置竹林問題に対して、実際に竹林に入って整備できない人でも、『食べる』という消費者の視点で誰でも楽しめる活動に取り組むことで、放置竹林の解決に少しでも寄与したいという思いで発足しました。

6月7日(水)と10日(土)には「**タケノコ食べて蛭を見る会 in 土佐山**」を開催し、鏡川上流域でタケノコ料理やホタル鑑賞を楽しみました！



大久保さんは、事前に「ぼっちり」の体験チケットを活用して、イベントの参加者やタケノコを使ったメニューのアイデアを募集しました。香川県在住のユーザーから「タケノコを天ぷらにしてうどんに乗せて食べています」という情報が寄せられるなど、多数の貴重な情報が集まりました。

鏡川流域関係人口講座1期生の林明保さんにご協力いただき、林さんの所有する竹林を歩きながら竹林の現状を把握しました。竹林を歩く際にオンライン中継を行うことで、実際に竹林に入ることができない人や遠方の人でも参加できました。

竹林散策のあとは、放置竹林問題を解決するアイデアや感想を共有したり、SNSなどで自由に発信したりと、アウトプットの時間が設けられていました。



竹を切り出して竹コップを作りました！



夕方からは、タケノコ料理を囲んで参加者同士の交流の時間。タケノコを使った炊き込みごはんや煮物、アヒージョなどの美味しいメニューを食べながら、タケノコを「食べる」ことで放置竹林問題を解決するアイデアを自由に考えました。夜にはホタルを鑑賞し、イベントは終了。イベント後も「ぼっちり」のアプリなどを使って参加者同士の交流は続いています。鏡川流域の自然環境の中で、多様な人たちが集まり、課題解決に向けて楽しい取組を進めています！今後の活動にも注目です♪



大久保さんのコメント

今回のイベントを通して自分で調理するという事にトライしたので、失敗もありましたが「タケノコアヒージョ」という人気メニューを作ることができました！そして、タケノコという食材の奥の深さに魅了されつつあります。6月7日には遠く愛知からもご参加いただき、驚いています！ご参加いただいた皆様のご協力に、いつも力をもらっています。まだまだ放置竹林問題解決には程遠いかもしれませんが、自分自身が楽しみながらできる方法で続けていこうと思います。

参加者のコメント

放置竹林という難しい題材だけでなく、タケノコをみんなで食べる・ホタルを観るというイベントも盛り込んであってとても楽しかったです！イベントをきっかけに放置竹林に対するアンテナを持つ人が増えるといいなと思いました。

蛭が100匹は見えて大満足です！

高知の人はあったかいなと思いました！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつながる山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android